

第1回創玄杯躰道競技大会

主催：創玄会

会場：練馬区立総合体育館

日時：2024年6月16日（日）

役員・審判集合 : 8:00~

選手入館 : 8:30~

開会式 : 9:00~

退館 : 18:00

目次

- ご挨拶
- 大会役員
- 競技内容・出場資格（概要）
- 時程表
- トーナメント
 1. 新人運足八法競技
 2. 男子段位個人法形
 3. 女子段位個人法形
 4. 男子級位個人法形
 5. 女子級位個人法形
 6. 男子段位個人実戦
 7. 女子段位個人実戦
 8. 男子級位個人実戦
 9. 女子級位個人実戦
 10. 段位団体実戦
- アクセス
- 諸注意
- 観客席の割り振り
- 躰道五条訓
- 競技内容・出場資格（詳細）

ご挨拶

第1回創玄杯躰道競技大会 大会 会長 安部 幸史郎

第1回創玄杯躰道競技大会の開催にあたり、創玄会関係団体の皆様をはじめ、実行委員の皆様には多大なるご支援とご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

初代宗家 祝嶺正献最高師範が遺された言葉、「躰道は85%完成した」という教えは、私たちに残された15%を「創造進化」の理念で埋める使命を示しており、躰道は、その無限の可能性を追求する旅であるということをご指導くださいました。

創玄杯は、この未踏の領域への挑戦を促すために創設され、競技大会としての顔も持ちつつ、それ以上に指導者・審判・選手・役員など、すべての関係者が躰道の深淵を探求し、共に学び合う合同研修（研究）の場としての役割を担っております。

創玄杯の開催にあたっては、以下の点に留意して進めてまいります。第1回なので、関係者には必ず目を通して頂ければと存じます。

- 躰道の基盤となる85%の部分を再確認し、さらなる深化を目指していく。
- 各団体の習熟度を踏まえ、毎回、新たなテーマを創玄杯に取り入れ開催していく。
- 創玄杯は、一日のイベントに留まらず、創玄杯のテーマ発表と同時に参加関係者はその探求を始める。日々の稽古からその挑戦が始まるということ。
- 時間的に可能であれば、大会当日に参加者全員でテーマの答え合わせを行っていく。
- 創玄杯テーマが参加者の実技に反映され、各全国大会でより良い成果に結びつくことを期待しているが、そこで絶対に満足をしないうこと。大きな大会で勝利することがゴールではなく、そこはスタート地点であることを忘れないこと。
- 躰道を創るための基盤（85%）がある程度確立されたら、本格的に残り15%の探究を楽しみながら進めていく。

15%の進め方については、適切な時に案内します。創玄杯を通じて、皆で躰道の新たな歴史を築いていけることを願っております。

最後になりますが、この創玄杯が成功裏に開催され、参加している一人ひとりが創造的主体となり、躰道全体の強力な牽引役になることを期待し、ご挨拶とさせていただきます。

大会役員

大会会長	安部 幸史郎		
大会審判長	安部 幸史郎		
大会審判員	板山 宜弘	山際 真穂	古田 一行
	宇野 友季子	良本 真基	宇部 真広
	名倉 崇広	保坂 由実	高松 大地
	大山 純平	磯野 遥	佐藤 幹
	齋藤 健太	吉本 一貴	富松 亮太
大会実行委員長	良本 真基		
大会実行委員	創玄会	齋藤 健太	高松 大地
	東京大学 運動会躰道部	山際 真穂	小代田 拓巳
	慶應義塾大学 躰道部	荻野 聖琉	高久 陽規
		宇野 友季子	阿部 舜
		藤田 政徳	松田 勇太
	衣斐 花	岡部 明人	
	安藤 翠		
大会進行委員	藤田 政徳(筆頭)		
	奥谷 真美	前田 尚大	村瀬 和都
	嶋本 幸之助	積 太志郎	美能(岡野) 美優
	古市 侑太郎	大森 亮	坂本 壮志
	船守 晴帆	阿部 秀汰	室 朝喜
	山口 翔義	小川 孝衛	中村 隼
	平野 悠太	塚原 泰	古家 采奈
	清原 海音		
出場団体	創玄会		
	東京大学運動会躰道部		
	慶應義塾大学躰道部		
	山梨大学躰道部		

競技内容・出場資格（概要）

No.	競技種目名	出場資格	競技内容
1	新人運足八法競技	一般無級・ 男女混合	以下の URL に掲載された筋で、運足・基本技を行う。 構えや運足、動攻五戒の体得を重視し判定を行う。 https://youtu.be/XyqWEPUmW4A?feature=shared
2	男子段位個人法形競技	初段以上・ 男子	1・2 回戦は運体の法形。3 回戦以降は転体の法形。 法形の十大要素に加え、 対の先で一本を取る表現の体得を重視し判定を行う。 ※事前に、対の先で一本を取る表現箇所の申請を行う。 審判も申請内容を把握の上、判定を行う。
3	女子段位個人法形競技	初段以上・ 女子	1・2 回戦は運陰の法形。3 回戦以降は転陰の法形。 法形の十大要素に加え、 対の先で一本を取る表現の体得を重視し判定を行う。 ※事前に、対の先で一本を取る表現箇所の申請を行う。 審判も申請内容を把握の上、判定を行う。
4	男子級位個人法形競技	1～4 級・ 男子	体の法形から自由選択で法形を行う。 法形の十大要素に加え、効果的な気合の体得を重視し判定を行う。 ※ただし段位法形と異なり、気合箇所は他大会と同様の箇所とし、 追加の気合箇所の事前申請は行わない。
5	女子級位個人法形競技	1～4 級・ 女子	陰の法形から自由選択で法形を行う。 法形の十大要素に加え、効果的な気合の体得を重視し判定を行う。 ※ただし段位法形と異なり、気合箇所は他大会と同様の箇所とし、 追加の気合箇所の事前申請は行わない。
6	男子段位個人実戦競技	初段以上・ 男子	競技時間 1 分半で実戦競技を行う。 基本的かつ発展的な実技の体得を重視し判定を行うこととし、
7	女子段位個人実戦競技	初段以上・ 女子	競技時間の中で指導時間を設け、指導の程度を判定に反映させる。 また、操体の不十分な実技や制法・防主の未成熟な実技等は
8	男子級位個人実戦競技	1～4 級・ 男子	判定の引き下げも考慮する。
9	女子級位個人実戦競技	1～4 級・ 女子	
10	段位団体実戦競技	初段以上・ 男女混合	競技時間 1 分半で実戦競技を行う。 男子 3 名、女子 2 名を 1 チームとする。 各団体から最大で 2 チームまで参加可能とする。 ※通常の競技ルールと変更はなし。

時程表（午前）

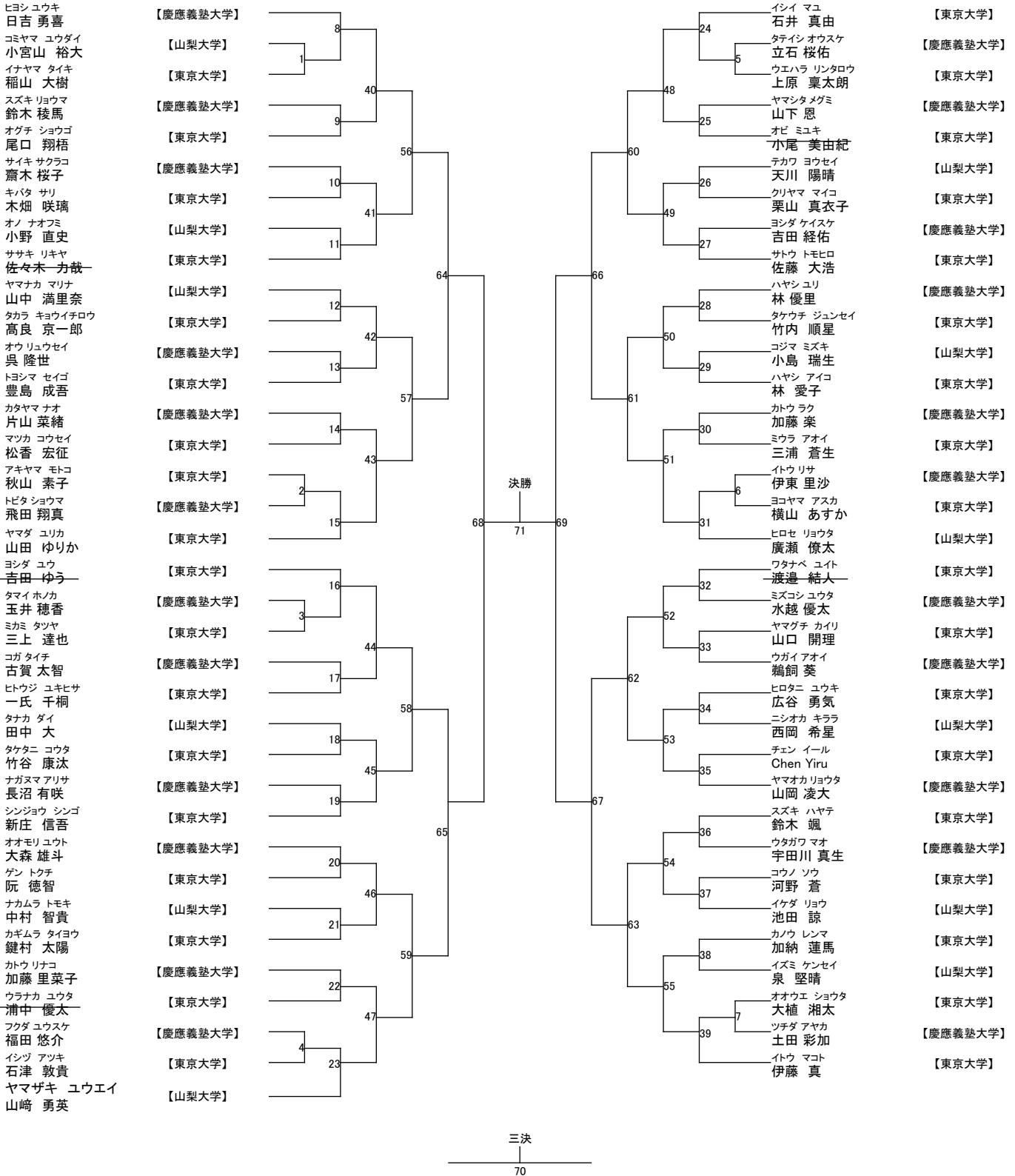
時刻	Aコート	Bコート	Cコート	Dコート	時刻
8:00	審判・役員集合				8:00
8:30					8:30
8:30	選手集合・アップ				8:30
9:00					9:00
9:00	開会式				9:00
9:15	男子級位法形A No.1-5,10-13,18,19,22	男子級位法形B No.6-9,14-17,20,21,23	女子級位法形C 1,2,4-7,12,13,16	女子級位法形D 3,8-11,14,15,17	9:15
10:00			新人運足C No.3,4,16-23,44-47,58,59,65	新人運足D No.7,32-39,52-55,62,63,67	9:50
10:00	新人運足A No.1,2,8-15,40-43,56,57,64,68	新人運足B No.5,6,24-31,48-51,60,61,66,69	女子段位法形C No.1,2,5-8,13,14,17	女子段位法形D No.3,4,9-12,15,16,18	9:50
11:00	男子段位法形A No.1-5,10-13,18,19,22	男子段位法形B No.6-9,14-17,20,21,23			10:40
11:40	女子段位個実A No.1,2,5-8,13,14,17	女子段位個実B No.3,4,9-12,15,16,18	男子級位個実C No.1-5,10-13,18,19,22	男子級位個実D No.6-9,14-17,20,21,23	10:40
12:30					11:30
12:30	昼休み				11:30
13:15					12:30
					13:15

時程表（午後）

時刻	Aコート	Bコート	Cコート	Dコート	時刻
13:15	男子段位個実A No.1-7,15-18,23,24,27 ※No.7が終わった時点で 5分ほど小休止	男子段位個実B No.8-14,19-22,25,26, 28 ※No.7が終わった時点で 5分ほど小休止	女子級位個実C No.1,2,9,3,4,10,11,14	女子級位個実D No.5-8,12,13,15	13:15
					13:55
14:40	入れ替え	入れ替え			13:55
14:40	団体実戦A No.1,4	団体実戦B No.2,3,5	※時間が押した場合、 決勝・三決をCDコートにて実施可能性あり		
15:20					15:20
15:20	新人運足決勝 男子級位法形決勝 男子段位法形決勝 男子級位実戦決勝 男子段位実戦決勝	新人運足三決 男子級位法形三決 男子段位法形三決 男子級位実戦三決 男子段位実戦三決	女子級位法形決勝 女子段位法形決勝 女子級位実戦決勝 女子段位実戦決勝	女子級位法形三決 女子段位法形三決 女子級位実戦三決 女子段位実戦三決	15:20
15:40					15:40
15:40	団体実戦決勝	団体実戦三決			15:40
15:55					15:55
16:00	閉会式				16:00
16:15					16:15
16:15	指導				16:15
17:40					17:40
17:40	撤収				17:40
18:00					18:00

トーナメント

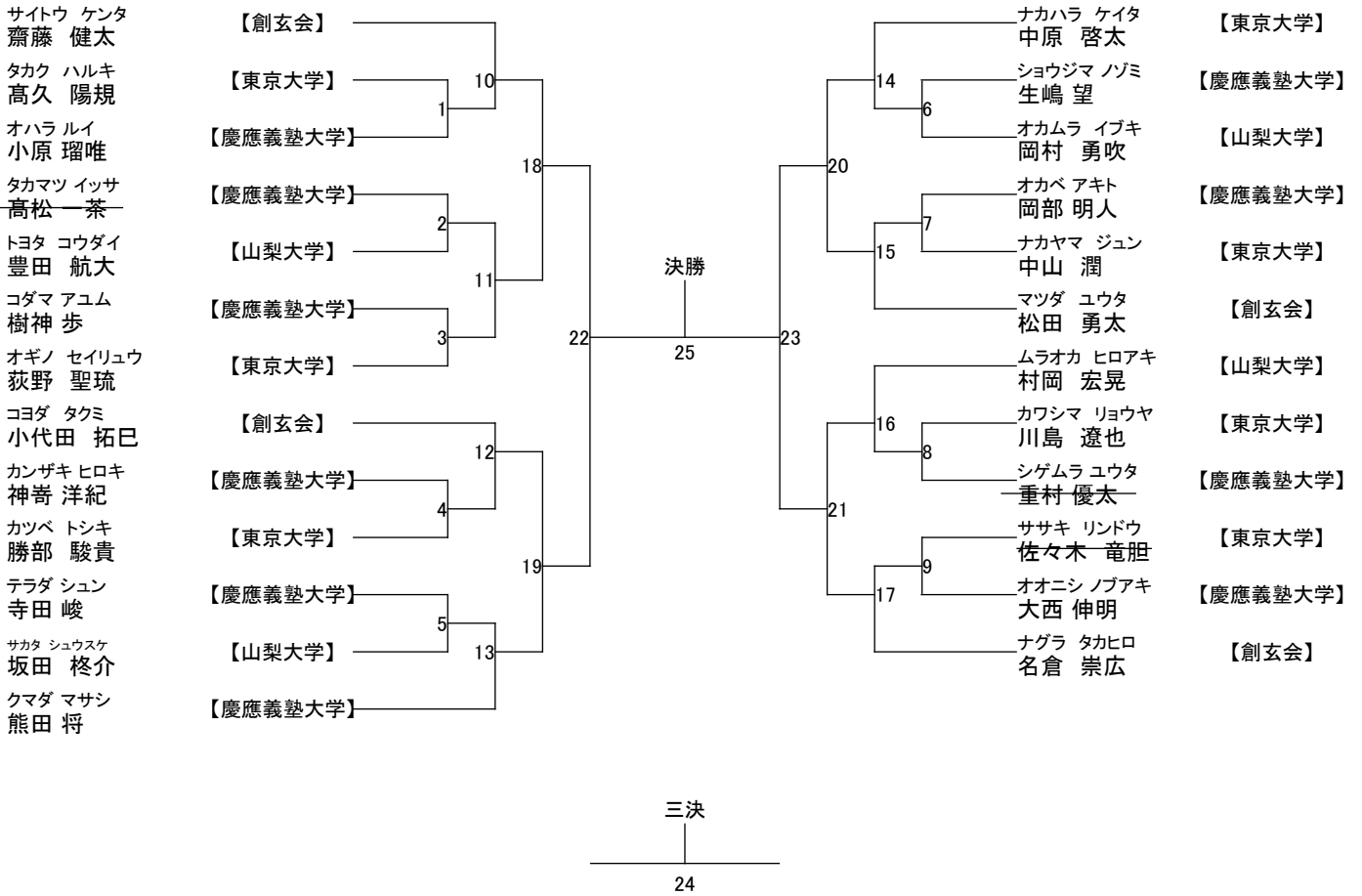
1. 新人運足八法競技



トーナメント

2. 男子段位個人法形

1・2 回戦：運体の法形 / 3 回戦以降：転体の法形

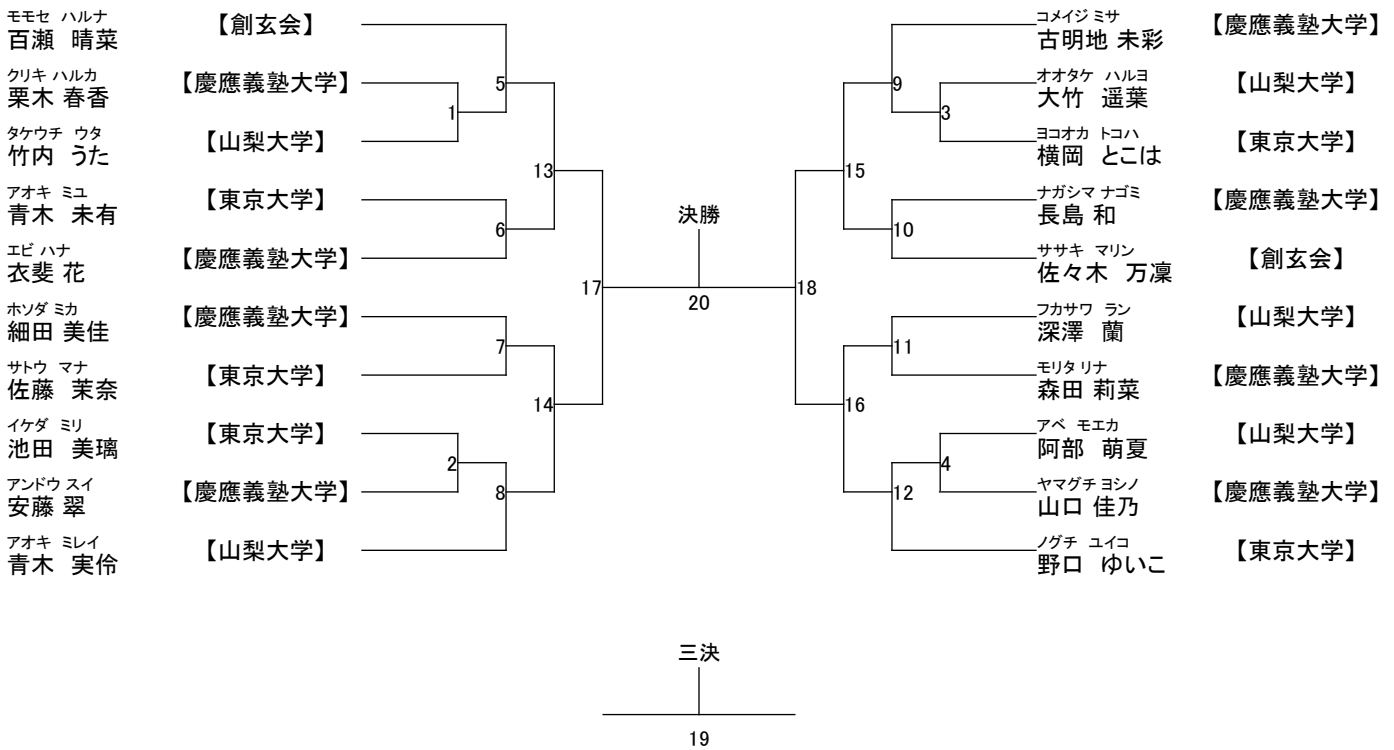


優勝	第2位	第3位	第4位

トーナメント

3. 女子段位個人法形

1・2 回戦：運陰の法形 / 3 回戦以降：転陰の法形

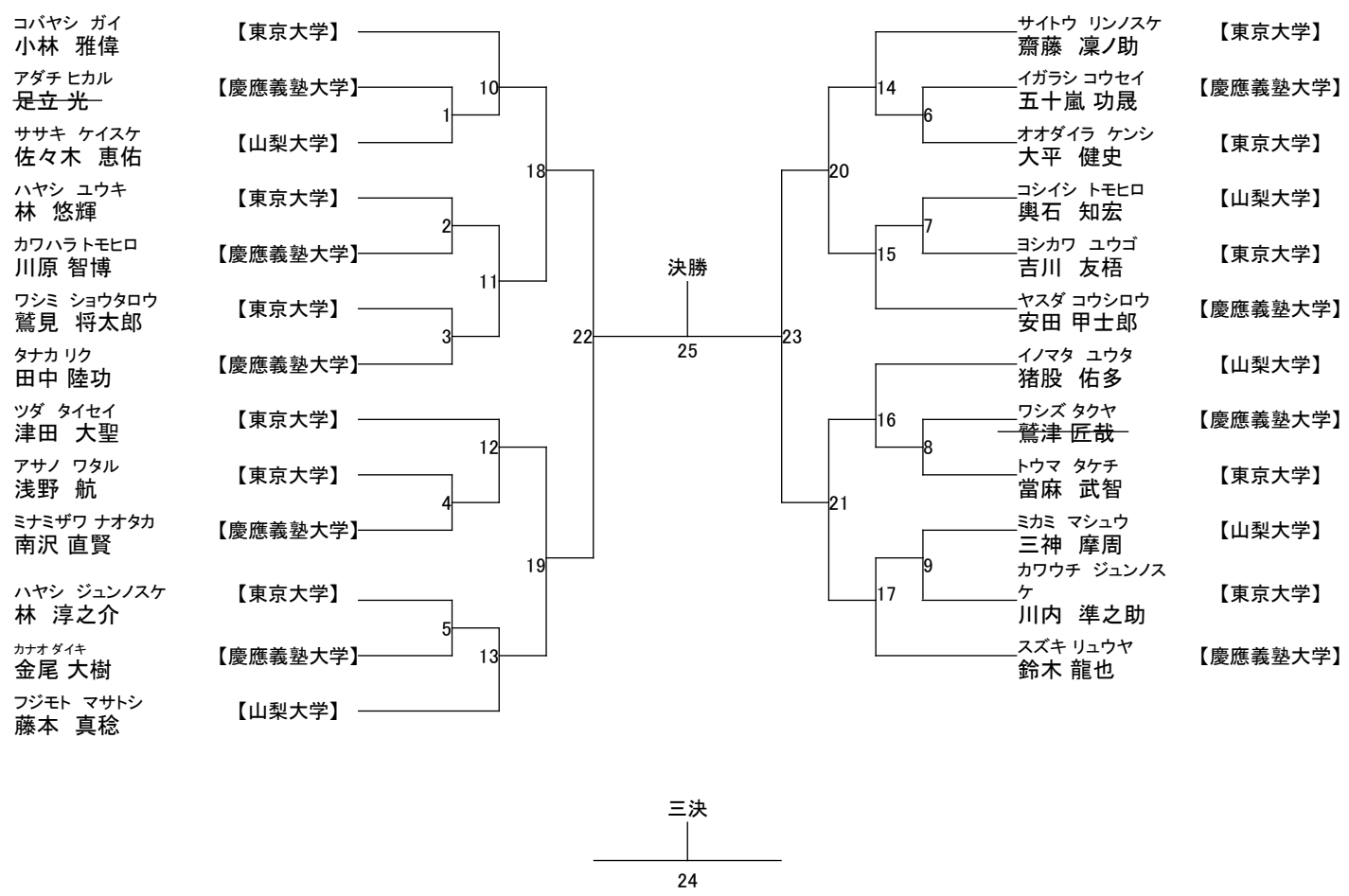


優勝	第2位	第3位	第4位

トーナメント

4. 男子級位個人法形

体の法形から自由選択

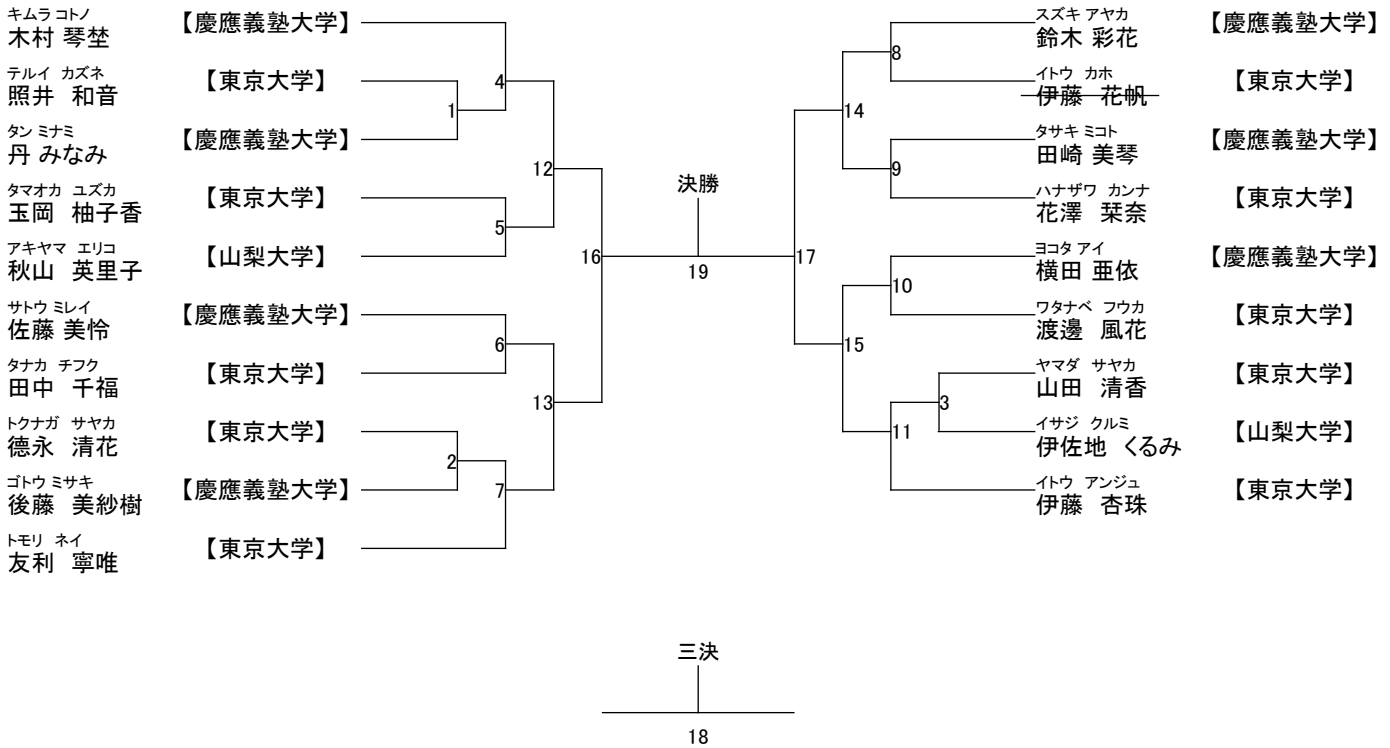


優勝	第2位	第3位	第4位

トーナメント

5. 女子級位個人法形

陰の法形から自由選択

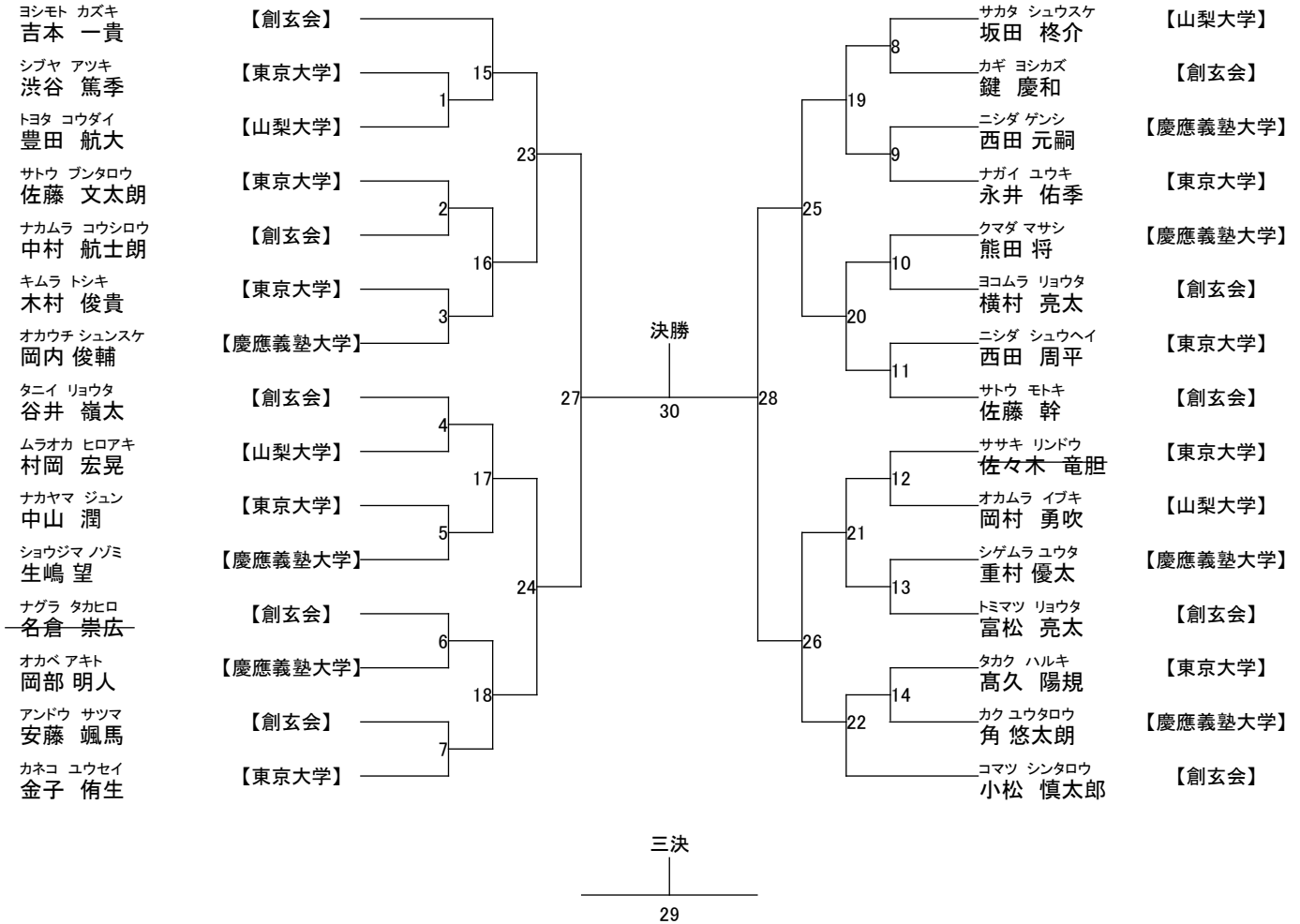


優勝	第2位	第3位	第4位

トーナメント

6. 男子段位個人実戦

試合時間 1分30秒
胴プロテクター着用厳守

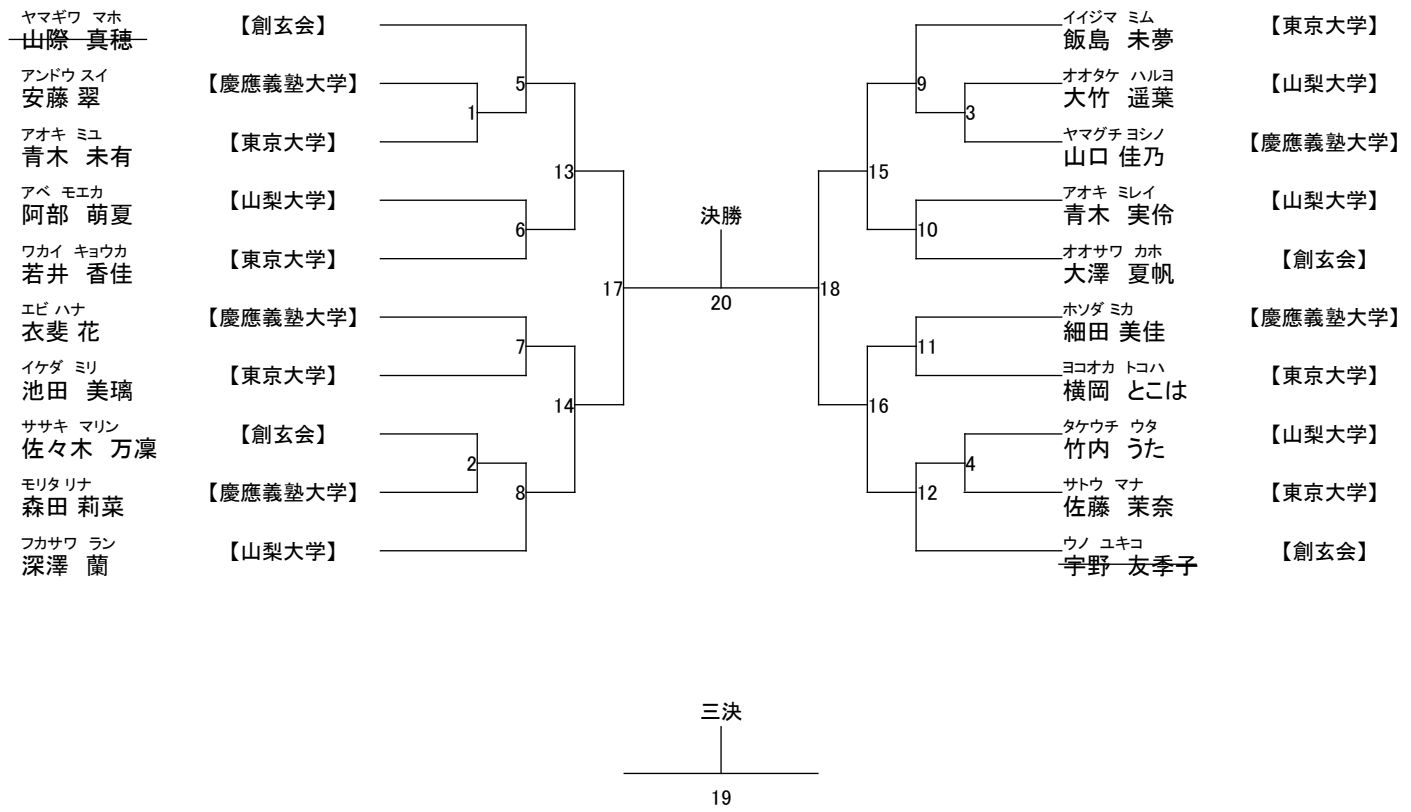


優勝	第2位	第3位	第4位

トーナメント

7. 女子段位個人実戦

試合時間 1分30秒
胴プロテクター着用厳守

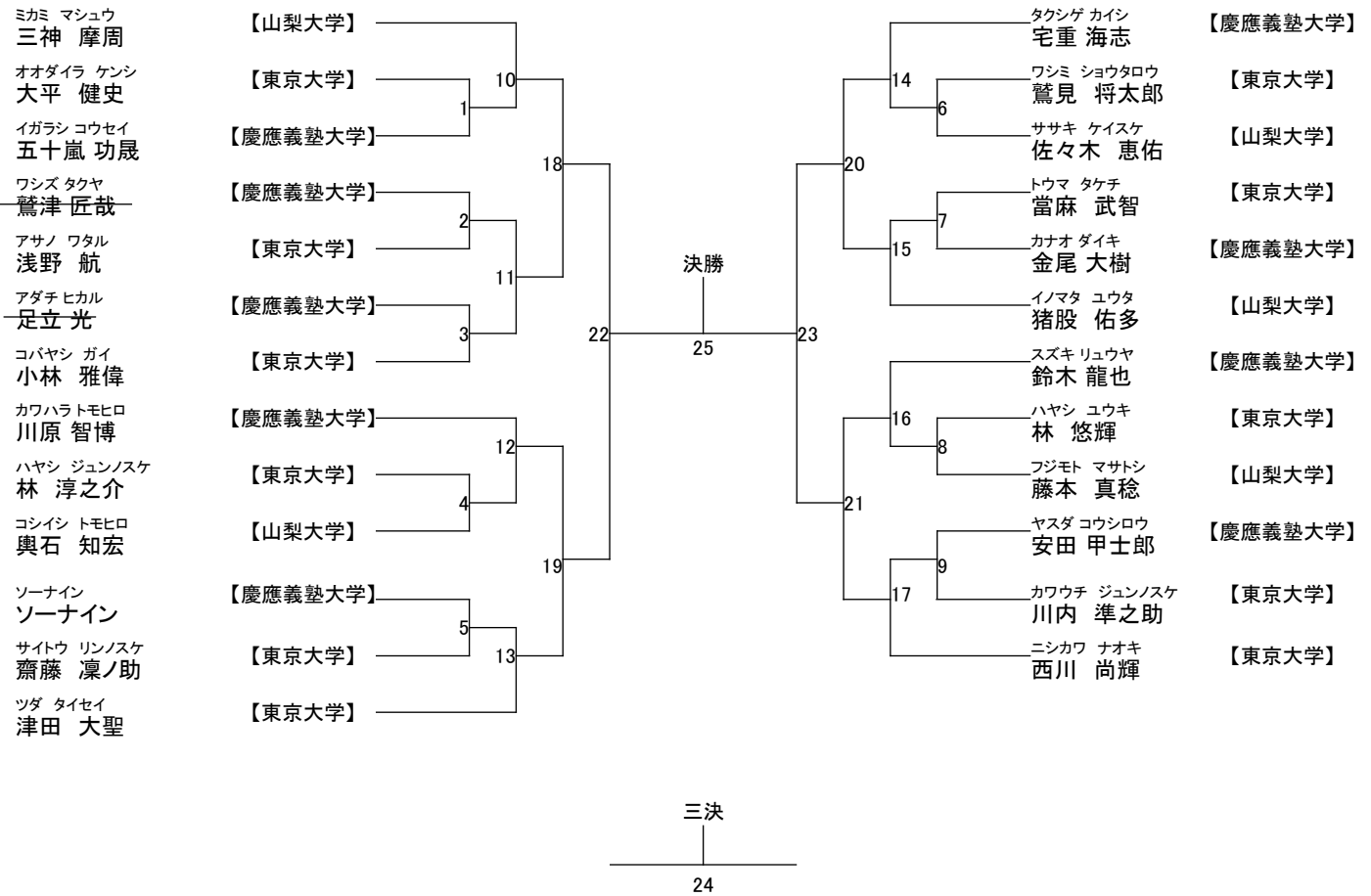


優勝	第2位	第3位	第4位

トーナメント

8. 男子級位個人実戦

試合時間 1分30秒
胴プロテクター・面ピット着用厳守

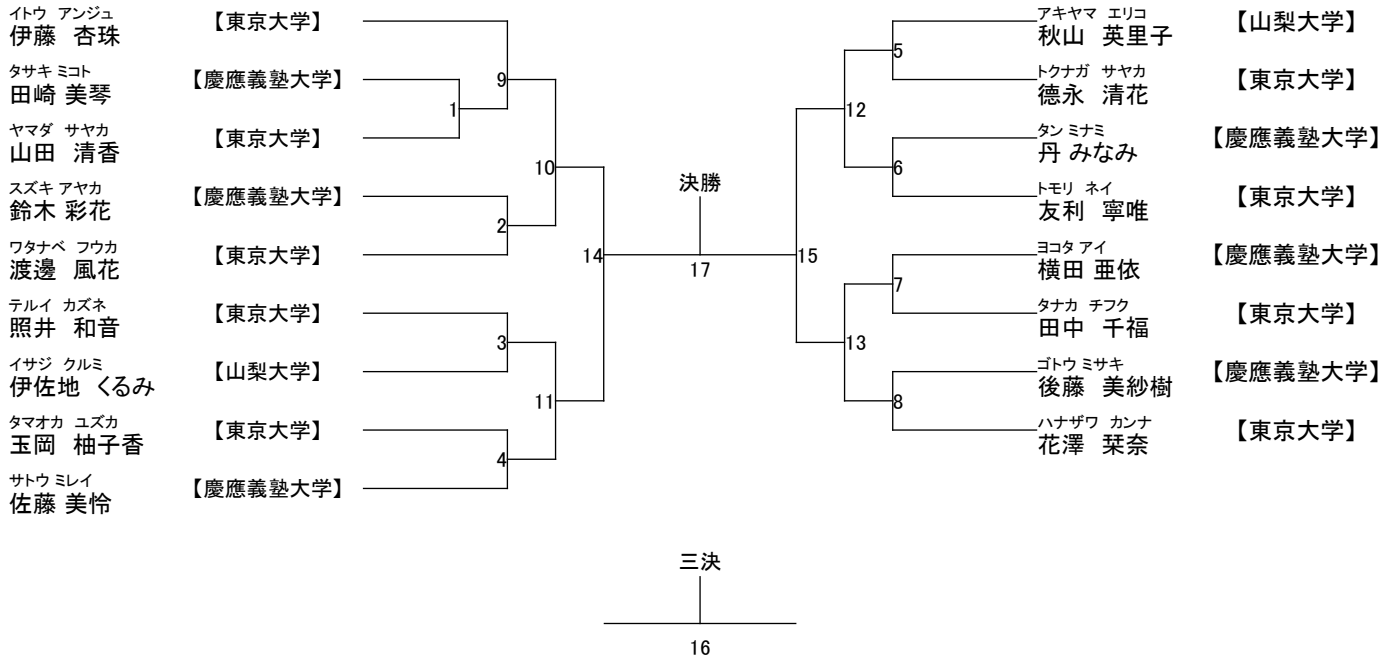


優勝	第2位	第3位	第4位

トーナメント

9. 女子級位個人実戦

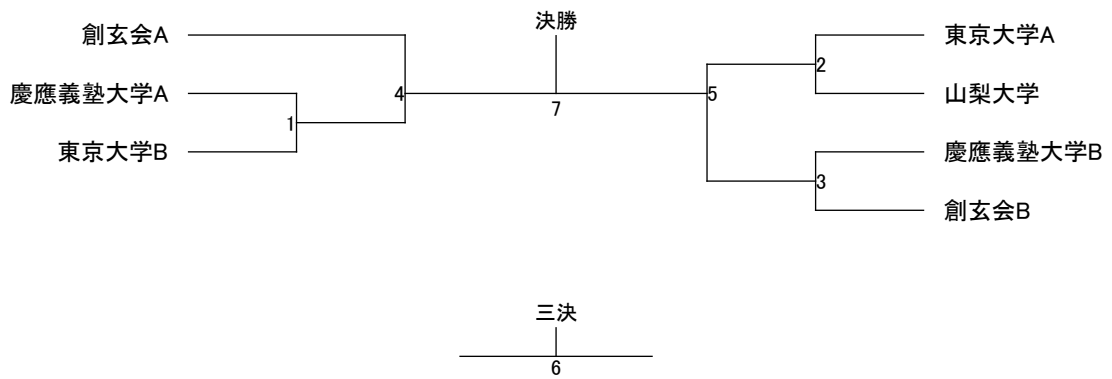
試合時間 1分30秒
胴プロテクター・面ピット着用厳守



優勝	第2位	第3位	第4位

トーナメント 10. 段位団体実戦

試合時間 1分30秒
胴プロテクター着用厳守



優勝	第2位	第3位	第4位

アクセス

- 会場：練馬区立総合体育館
- 住所：〒177-0032 東京都練馬区谷原1丁目7番5号
- 電話：03-3995-2805
- HP：<https://www.city.nerima.tokyo.jp/shisetsu/koen/taiku/sogo.html>
- 公共交通機関の利用：
 - 【西武池袋線】
練馬高野台駅北口下車徒歩15分
練馬駅から「西武バス」成増町行－練馬総合体育館下車2分
練馬高野台駅北口から「西武バス」成増町南口行－谷原三丁目下車4分
大泉学園駅北口から「西武バス」練馬駅行－練馬総合体育館下車0分
 - 【東京メトロ】
成増駅近く「成増町」バス停から「西武バス」練馬駅行－練馬総合体育館下車0分
 - 【JR】
吉祥寺駅から「西武バス」成増町行－谷原三丁目下車4分
- 車の利用：
 - **原則、公共交通機関の利用をお願いします**
 - **お車で来られる場合、体育館裏にある【第二駐車場】をご利用ください**
 - **午前8:00から駐車可能です。時間前に並ばないようお願いします**
 - 係員からの誘導に従って奥から止めてください
 - 駐車場は有料です（最初の1時間200円。以後30分ごとに100円）
 - マイクロバス等の車はローラー側の駐車場へお願いします。
なお、ローラー側の駐車場は午前7:00から駐車可能です。
時間前に並ばないようお願いします。
 - 大型バスは駐車できません
 - **次ページで補足いたします**

アクセス

※車利用の補足



諸注意

- 事前確認のお願い
 - 本大会は、通常の大会ではなく、指導的要素を重視した大会になります。そのため、出場選手・審判ともに、競技内容や判定の観点について事前に熟読の上、ご参加ください。
- 持ち物
 - 出場選手は大会当日、「健康保険証」を必ずご持参ください。
- 服装
 - 出場選手は、日本躰道協会公認の躰道着を着用してください。
 - 実戦競技出場選手は、必ず指定の胴プロテクターを道着の下に着用してください。級位実戦出場選手は面ピット着用も必須となります。段位実戦出場選手も着用可能です。
 - 団体実戦の競技監督も躰道着着用でご参加ください。
 - 本大会では、閉会式後に指導時間を設けることを想定しているため、審判も躰道着着用にて実施します。
 - **着替えはB1更衣室の使用をお願いします**
 - **裸足は競技場のみ可能です。その他（観客席・ロビー・通路・トイレ等）は裸足が禁止のため、履いてきた靴や持参したサンダル等を履くようにしてください。**
- 開会式
 - 出場選手は事前に「躰道五条訓」を練習し、唱和できるようにしておいてください。当日は、選手代表のもと、全員で唱和を行います。
- 食事
 - 食事は、観客席か会議室のみで行って下さい。
 - ロビー・コートでの食事は一切禁止となります。
- 会場の片付け
 - 大会終了後、速やかに片付けをお願いします。
 - お持ちになったゴミはご自身で必ず持ち帰りください。また、退館時、観客席等にゴミが残っていないことを確認の上、ご移動ください。
- 観客席
 - **各団体に指定された観客席（次ページ参照）をご活用ください。**
- 大会中の所作
 - 他のお客様の妨げになるような事がないように心がけてお過ごしください。
 - 問題や緊急事態が発生した場合は、速やかに実行委員会にお知らせください。
 - 他の利用者も来館していますので、ロビー・通路等は使用禁止です。
- 貴重品
 - 誰でも大会会場に観客として入場できる状況となっております。各団体で貴重品の管理を行ってください。実行委員会では貴重品の保管場所などのご準備はございませんのでご容赦ください。

躰道五条訓

- 一、心明鏡にして諸行の実相を写し
心位正しきを得れば惑さる事なし
- 一、態端正にして心形の一体を圓り
態位正しきを得れば侮られる事なし
- 一、氣充溢にして精氣を丹田に発し
氣位正しきを得れば恐れ戦く事なし
- 一、行実践するに倫理の常道を守り
行位正しきを得れば誤り行つ事なし
- 一、技変にして身体を自在に移し
技位正しきを得れば制される事なし

岳雲



競技内容・出場資格（詳細）

1.新人運足八法競技

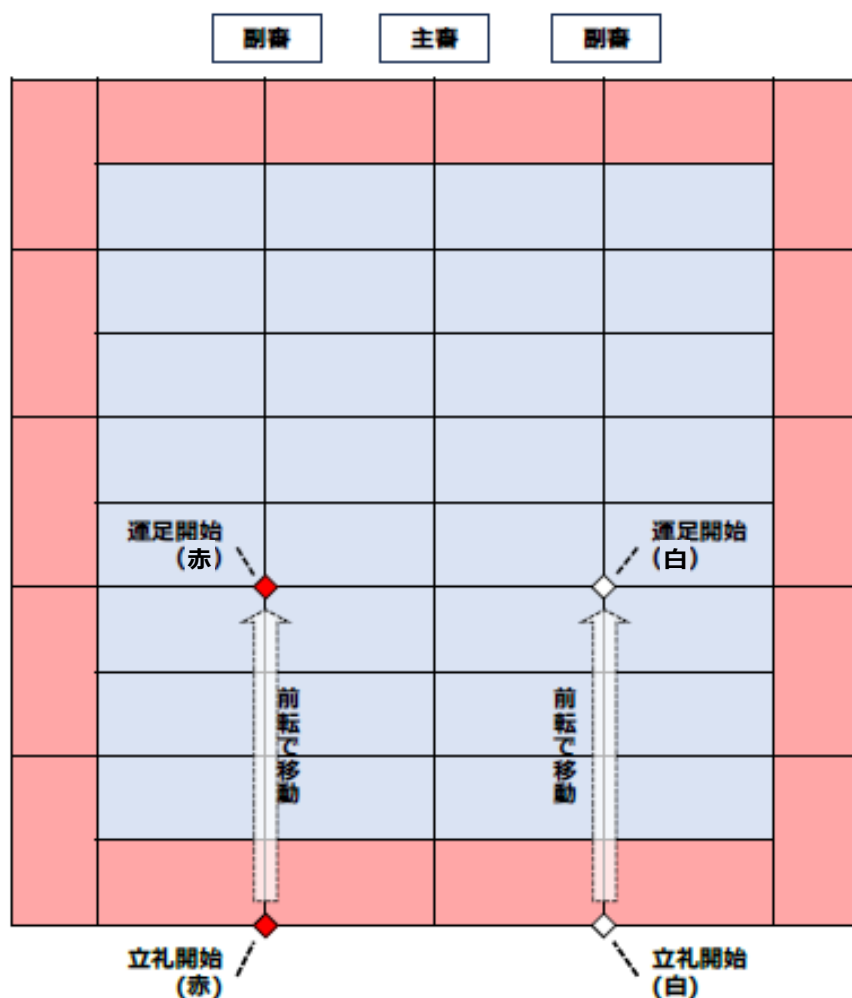
競技の狙い	<ul style="list-style-type: none">新人が習熟期間を十分に経ず大会出場を行うことを鑑み、法形による実技体得を競うのではなく、大会開催月時点で将来的な実技向上のために重視すべき実技の定着度・習熟度を競う。 <重視すべき実技（2024年度）><ul style="list-style-type: none">✓ 基本的な立ち方✓ 動攻五戒を意識した旋技/運技/変技の✓ 躰道・武道的要素を意識した運身✓ 礼法（立礼、座礼）や基動点・基動線
競技の概要	<p>以下の筋に則り、運足・基本技を行う。</p> <p><運足八法競技の流れ></p> <ul style="list-style-type: none">開始位置に移動し、結び立ちで起立。結び立ちのまま、審判の笛①で立礼後、閉足立ちに移行。 ※立礼から判定対象となります開始位置にて、閉足立ちから左中段構え。開始位置から、運足八法開始位置(コート端から2畳)まで前転で移動し、前転から滑らかに左下段構えに移行。 ※基動点から外れた箇所前転を終了してしまい、構えが基動点から外れてしまった場合、運足八法開始前に必ず基動点に戻ることとする。開始時点で基動点にいない場合は減点とする。審判の笛②で、運足八法（左下段側）を行う。 ただし、運足八法中には以下の順番で旋・運・変の実技を行う。<ol style="list-style-type: none">送足引足加足旋体直状突き・原態（退足）減足交足転足運体蹴り突き（追足は行わない）退足変体海老蹴り（原態後）右中段構え（右中段構え後）右下段構え ※相手選手よりも先に右下段構えを行った場合は、審判の笛③まで下段構えにて待機審判の笛③で、運足八法（右下段側）を行う。運足八法の順番は、左下段側と同様。<ol style="list-style-type: none">1～12. 同上13. 左下段構え後、正座14. （正座後）座礼 <p><実技参考動画></p> <p>正面視点：https://youtu.be/XyqWEPUmW4A?feature=shared</p> <p>横視点：https://youtu.be/02sEkkG5RGw?feature=shared</p>

競技内容・出場資格（詳細）

1. 新人運足八法競技

判定	<ul style="list-style-type: none">3名の審判が、以下の観点で実技の評価を行い、審判員の赤白の旗の数によって勝敗を決定する。<ul style="list-style-type: none">✓ 基本的な立ち方（常の身、立ち方八態、構え）の体得✓ 旋技/運技/変技の動攻五戒(単技・連技)の体得✓ 躰道・武道的要素を意識した運身の体得✓ 基本的な礼法（立礼、座礼）や意識の体得✓ 基動点・基動線の意識定着
出場資格	<ul style="list-style-type: none">一般無級（2024年度入部した新人）男女混合

備考) 競技の位置



競技内容・出場資格（詳細）

2. 男子段位個人法形/3. 女子段位個人法形

競技の狙い	<ul style="list-style-type: none"> 身体操作だけではなく、躰道の法形ならでの「対の先で一本を取る表現」の体得と体得に向けた修練方法・発想の向上を意図し、一本の表現度を判定に組み込む。
競技の概要	<ul style="list-style-type: none"> 事前に、対の先の本を取る表現を行う箇所を申請し、指定された法形を行う。 一本の表現を行う箇所は選手自身が検討し、自由に指定できるが、一本の表現箇所では必ず気合を出すこととする。
指定法形	<ul style="list-style-type: none"> 男子段位個人法形：1・2回戦は運体の法形。3回戦以降は転体の法形。 女子段位個人法形：1・2回戦は運陰の法形。3回戦以降は転陰の法形。
判定	<ul style="list-style-type: none"> 3名の審判が実技の評価を行い、審判員の赤白の旗の数によって勝敗を決定する。 審判は、十大要素、基礎動作及び勳功五戒による基本技法の体得度を基本とし、後述する一本の表現度を加味した観点で評価を行う。 絶対的評価による加減点法で計算し、赤白選手の相対的評価によって勝敗の判定を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <十大要素> <ol style="list-style-type: none"> 用意と起心 体軸と整体 攻防と陰陽 緩急と強弱 伸縮と剛柔 気合と威力 着眼と目標 呼吸と勢法 運足と運身 残心と解体 一本の表現の判定上の加減点数は以下の通りとする。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 一本の表現ができている（最大 1.5 加点） ✓ 技ありの表現ができている（最大 0.7 加点） ✓ 有効の表現ができている（最大 0.3 加点） いずれも表現ができている（最大-0.5 減点） ※事前に申請した一本の表現箇所、気合がない場合は評価を下げることとする。 ※残心まで適切に意識して行っていることも評価の対象とする。
出場資格	<p>男子段位個人法形：初段以上（黒帯）、男子 女子段位個人法形：初段以上（黒帯）、女子</p>

競技内容・出場資格（詳細）

4. 男子級位個人法形/5. 女子級位個人法形

競技の狙い	<ul style="list-style-type: none"> 身体操作だけではなく、剣道の法形ならではの「対の先で一本を取る表現」の体得と体得に向けた修練方法・発想の向上を意図し、一本の表現度を判定に組み込む。
競技の概要	<ul style="list-style-type: none"> 行う法形に、実技追加は行わない（他大会と同様の法形を実施）。 ※段位法形競技と異なり、一本の表現箇所の事前申請は行わない。 ※ただし、気合の有効度による加減点は考慮する。
指定法形	<ul style="list-style-type: none"> 男子級位個人法形：体の法形から自由選択 女子級位個人法形：陰の法形から自由選択
判定	<ul style="list-style-type: none"> 3名の審判が実技の評価を行い、審判員の赤白の旗の数によって勝敗を決定する。 審判は、十大要素、基礎動作及び動功五戒による基本技法の体得度を基本とし、後述する一本の表現度を加味した観点で評価を行う。 絶対的評価による加減点法で計算し、赤白選手の相対的評価によって勝敗の判定を行う。 <p><十大要素></p> <ol style="list-style-type: none"> 用意と起心 体軸と整体 攻防と陰陽 緩急と強弱 伸縮と剛柔 気合と威力 着眼と目標 呼吸と勢法 運足と運身 残心と解体 <ul style="list-style-type: none"> 気合箇所における気合の有効度の加減点数は以下の観点で行い、最大で0.5点の加点を行う。 ✓ 気技 ✓ 声量 ✓ 適機 ✓ 気後 ✓ 効果
出場資格	<p>男子級位個人法形：色帯（1～4級）、男子</p> <p>女子級位個人法形：色帯（1～4級）、女子</p>

競技内容・出場資格（詳細）

6. 男子段位個人実戦/7. 女子段位個人実戦/ 8. 男子級位個人実戦/9. 女子級位個人実戦

<p>競技の狙い</p>	<ul style="list-style-type: none"> 従来の実戦競技においては、ポイント取得を主眼に置いた実技展開となりやすいことを鑑み、「躰道らしい実技」を志向する実戦を体得することを狙う。 そのため、日本躰道協会指導局による2024年度の重点テーマ*を評価に組み込み、判定を行う。また、選手/審判が競技中も重点テーマを意識して実技を行うことができるように競技ルールを変更し、試行する。
<p>競技の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> 試合時間は1分半。 ※実戦競技の時間は、主審の競技開始の合図により計るものとし、主審あるいは副審がホイッスル等で試合を中止した時、計時係は時間を止め主審の合図で再開する。 試合開始後、45秒が経過したタイミングで試合を中断し、指導審判員より、指導を行う。指導後、競技を再開し、主審・副審等による判定を行う。 <p><競技の流れ></p> <ul style="list-style-type: none"> 主審の合図により、競技を開始。 競技開始45秒後、指導審判員による指導を行う。 指導後、競技を再開し、45秒後の競技時間後、審判の合図により競技を終了する。
<p>判定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 試合の進行と判定を担う主審・副審に加え、指導と指導判定を担う指導審判員の3名体制で判定を行う。 主審・副審は、運足・操体・制法・極技・原態の流れに加え、日本躰道協会指導局による2024年度実戦競技重点テーマの観点を鑑み、判定を行う。 *参考：日本躰道協会2024年度実戦競技重点テーマ <ul style="list-style-type: none"> ■ 構え・運足・操体と相手に対して正しく行うこと <ul style="list-style-type: none"> ✓ 整体、足向、膝向、体の向き、腰動、重心、体技不一致、三つの嫌い（飛び足、摺り足、浮き足）、内弦、応変実動、動功五戒 ■ 正しい応変風靡を行うこと <ul style="list-style-type: none"> ✓ 防体注意、防体の方向とタイミング等 ■ 突き技の防手を徹底すること <ul style="list-style-type: none"> ✓ 旋・運・捻・転の際の顔面カバー等 ■ 攻撃の目標を正しく行うこと <ul style="list-style-type: none"> ✓ 運足～原態、蹴りの抱え、膝向 ■ 防体・操体不十分な技の禁止 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 片手礼、運突き等 指導審判員は、日本躰道協会指導局による2024年度実戦競技重点テーマに基づき、赤白双方の指導ポイントの判定を行う。 赤白の勝敗は、主審・副審による判定に加え、指導審判員の指導ポイントも加味し、判断を行う。

競技内容・出場資格（詳細）

6. 男子段位個人実戦/7. 女子段位個人実戦/ 8. 男子級位個人実戦/9. 女子級位個人実戦

<判定の流れ>			
試合時間	競技の流れ	今大会での追加基準	判定
競技開始 ～45秒	<ul style="list-style-type: none"> 主審の笛で競技開始し、審判の合図により競技停止 	主審・副審 <ul style="list-style-type: none"> 操体不十分/制法・防手不十分/極技不十分/原態不十分の場合は、技の評価をワンランク落とすこととする。 技中に不適切な動作を行った場合、審判の判断で「注意」を与える。 指導審判員 <ul style="list-style-type: none"> 別紙2の実戦採点表に基づき、構え/運足/操体/制法・防手にて指導を要すると判断された内容に応じて、指導ポイントを付与する。 	<ul style="list-style-type: none"> 45秒の間に「一本」または「失格」の判定が行われた場合、勝敗が決する。
指導時間	<ul style="list-style-type: none"> 指導審判員により競技者に指導を実施 所定の判定ルールに則り、指導内容を判定に反映 	指導審判員 <ul style="list-style-type: none"> 指導ポイントの付与数に応じて、指導された選手の相手選手に「有効」等の追加判定を行う。 指導ポイントによる判定も、通常判定と同様に、「有効」2本で「技有」とし、「技有」2本で「一本」とする。 (段位の場合) 指導ポイント×3で相手選手に「有効」を追加 (級位の場合) 指導ポイント×5で相手選手に「有効」を追加 	<ul style="list-style-type: none"> 指導審判員の追加判定により、既存の判定が「一本」の判定に繰り上がった場合、勝敗が決する。
指導後 ～45秒	<ul style="list-style-type: none"> 主審の笛で競技再開し、審判の合図により競技停止 	主審・副審 <ul style="list-style-type: none"> 操体不十分/制法・防手不十分/極技不十分/原態不十分の場合は、技の評価をワンランク落とすこととする。 技中に不適切な動作を行った場合、審判の判断で「注意」を与える。 指導審判員 <ul style="list-style-type: none"> 別紙2の実戦採点表に基づき、構え/運足/操体/制法・防手にて指導を要すると判断された内容に応じて、継続して、指導ポイントを付与する。 	<ul style="list-style-type: none"> 技有 vs 有効や、注意あり vs なしなど、判定により勝敗がつく場合は、判定結果により勝敗を決する 双方有効など、判定上、引き分けになった場合は、指導審判員が付けている指導ポイントの数が少ない方を勝者とする。 指導審判員の指導ポイントの数も同数だった場合は、主審・副審・指導審判員3名の合議により、内容の優劣によって勝敗が決する。
出場資格	男子段位個人実戦：初段以上（黒帯）、男子 女子段位個人実戦：初段以上（黒帯）、女子 男子級位個人実戦：色帯（1～4級）、男子 女子級位個人実戦：色帯（1～4級）、女子		

競技内容・出場資格（詳細）

10. 段位団体実戦

競技の狙い	<ul style="list-style-type: none">• 団体実戦の経験を積む。• 団体内および団体間での交流を促進する。
競技の概要	<ul style="list-style-type: none">• 試合時間は1分半とする。• 競技、審判、判定は他大会の団体実戦競技と同様に行う。• 男子3名、女子2名を1チームとする。• 各団体から最大で2チームまで参加可能とする。
審判ルール	<ul style="list-style-type: none">• 判定は通常通り（追加ルールなし）
判定基準	<ul style="list-style-type: none">• 判定は通常通り（追加ルールなし）
出場資格	<ul style="list-style-type: none">• 初段以上（黒帯）• 男女混合

2024年6月
編集 創玄杯実行委員会